

私はセルビアを拠点として、デジタルトランسفرオーメーション（DX）コンサルタントとして、大胆に変化中の業界で働いている。東欧の経済情勢は、近代化の要求とDXの緊急性に後押しされ、近年大きな変化を遂げつつある。

# 日本への期待 世界各地から

110

な取り組みの強化への期待が高まる中、日本とセルビア、そしてより幅広く東欧地域との間に、技術とビジネスに関する強力な協力関係のチャンスが生じている。

## セルビアとの協働への期待（上）

**新たなる道を切り開く**

に高度な技術ソリューションを統合するという課題に依然として直面する。多くの業種にとって、DXは現実というよりは目標にとどまる。

こうした課題にもかかわらず、成長の可能性は有望である。人材育成と技術革新の促進が強力に推進され、この地域は外国からの投資先として魅力的である。先端技術と製造業の世界的リーダーである日本には投資だけでなく、セルビアならびに近隣諸国との実践可能な成長に資する知識と実践を提供できるような重要なカゴにあらゆる卵を入れる。

この紛争の教訓は、ひとつ年にも技術革新

な役割が期待されている。セルビアと東欧企業にとって重大な懸念は、現在進行中のウクライナ・ロシア紛争の影響である。この地政学的影響はサプライチェーンを混乱させ、エネルギー不足をもたらし、業種をとわず不確実性を高めている。企業はリスク軽減のため迅速な適応を余儀なくされ、レジリエンス構築のためビジネスモデルを見直す必要がしばしば生じている。

ことは、非常に決方法だというべきである。この地政学的影響が存在するとし、ベーションにおいては、広い知見が、地政学的影響を軽減し成長につながることになる。セルビア企業は、経済とイノベーションの手がかりを探すことでも、そうすれば、その結果、彼らの引き継ぐものといえる。

日本は、長く

では技術への高評価とともに  
こととで称賛してきた。東歐  
開くことは、非常に厄介な問題解決方法だということだ。持続可能な発展とビジネス・イノベーションにおける日本の幅広い知見が、地域に不確実性が存在するとしても、その影響を軽減し成長の新たな機会につながることを期待している。セルビア企業は、安定的な経済とイノベーションへの手がかりを探す探偵のようなもので、そうすると日本の指紋だらけの引き出しのようなものといえる。

日本は、長く回復力や何十年にも技術革新を継続できた【ボリストラフ・チュブリロ、リーム中産連】(月曜日に掲載)